

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：平成24年第Ⅱ四半期（4月～6月）

設備投資：わずかに増加

採算状況：3期連続で改善するも改善幅は縮小

資金繰り：3期連続で横ばい

雇用人員：「過剰」感が「不足」感を上回る

《 概要 》

□設備投資

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（平成24年4～6月）に設備投資を「実施した」割合は16.5%と、前期（平成24年1～3月）の16.0%からやや増加した。

また、来期（平成24年7～9月）の設備投資の「実施予定」割合は16.2%と、当期実績に比べほぼ横ばいで推移する見通しとなった。

□採算状況

当期の採算状況を採算DI（「黒字」－「赤字」）で見ると、▲14.5（前期▲15.6）と3期連続で上昇したが、大きく改善した前2期に比べ改善幅は縮小した。

□資金繰り

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）で見ると、▲28.7（前期▲28.7）と、3期連続で変化がなかった。

□雇用人員

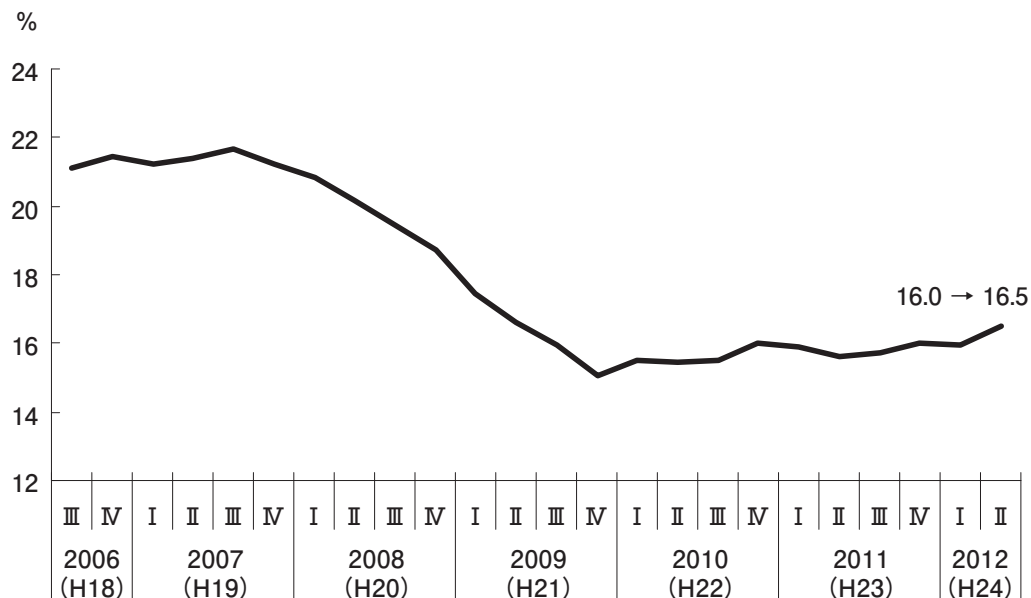
当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）で見ると、▲2.0（前期1.6）と3期ぶりに「過剰」感が「不足」感をやや上回った。

■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（平成24年4～6月）に設備投資を「実施した」割合は16.5%と、前期（平成24年1～3月）の16.0%からやや増加した。

また、来期（平成24年7～9月）の設備投資の「実施予定」割合は16.2%と、当期実績に比べほぼ横ばいで推移する見通しとなった。

図表1 設備投資の実施割合（全体）－後方4四半期移動平均－

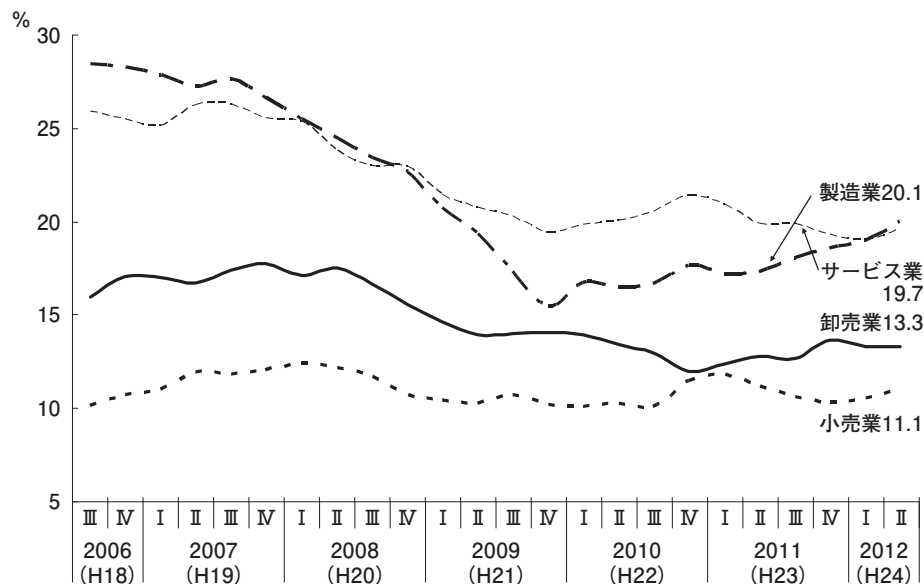


<注>来期（平成24年7～9月）の設備投資の予定については図表には記載していない。

業種別にみると、製造業20.1%（前期19.0%）は5期連続で増加し、約3年ぶりに2割を超えた。小売業11.1%（前期10.6%）は2期連続で増加し、減少傾向にあったサービス業19.7%（前期19.1%）も6期ぶりに増加に転じた。卸売業13.3%（前期13.3%）は横ばいで推移した。

また、来期（平成24年7～9月）の設備投資の「実施予定」割合は、サービス業が20.7%と当期実績よりも増加する見込みである。一方、製造業は19.3%と当期実績に比べて減少を見込んでいる。

図表2 設備投資の実施割合（業種別） -後方4四半期移動平均-

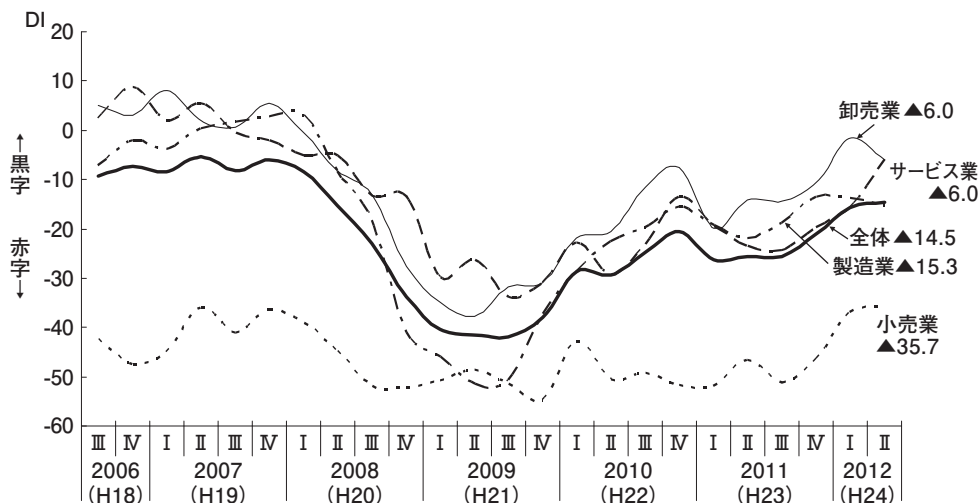


<注> 来期（平成24年7～9月）の設備投資の予定については図表には記載していない。

■採算状況■

当期の採算状況を採算DI（「黒字」-「赤字」）で見ると、▲14.5（前期▲15.6）と3期連続で上昇したが、大きく改善した前2期に比べ改善幅は縮小した。

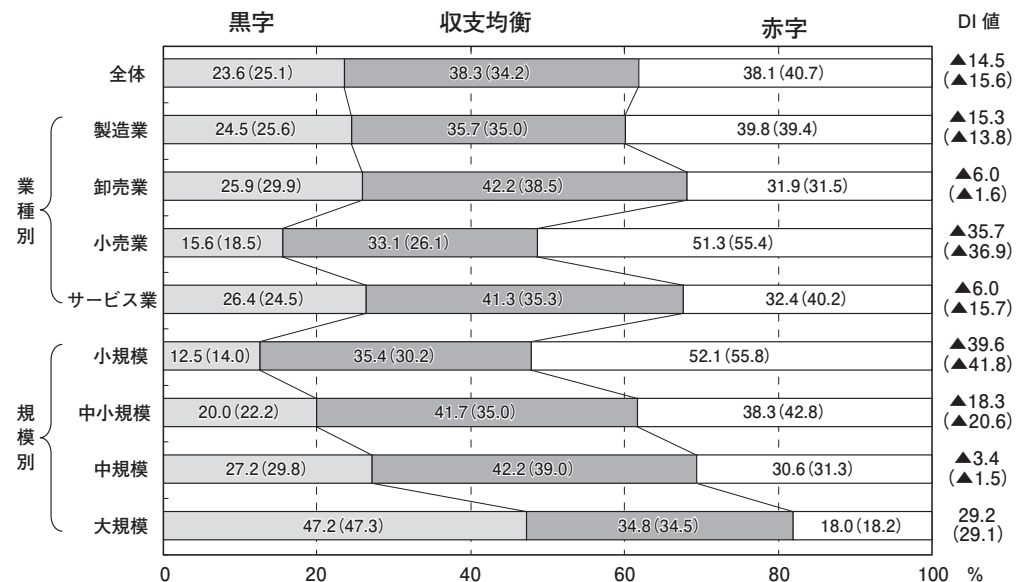
図表3 採算DIの推移



業種別にみると、サービス業▲6.0（前期▲15.7）は9.7ポイント増と大きく改善し、小売業▲35.7（前期▲36.9）は小幅ながら3期連続で改善した。一方、製造業▲15.3（前期▲13.8）は2期連続で悪化、上昇傾向にあった卸売業▲6.0（前期▲1.6）は3期ぶりに悪化し、業種により傾向が異なった。

規模別にみると、小規模▲39.6（前期▲41.8）、中小規模▲18.3（前期▲20.6）、大規模29.2（前期29.1）はそれぞれ改善したが、中規模▲3.4（前期▲1.5）は4期ぶりに悪化した。小規模では「赤字」とした企業が52.1%と半数以上を占め、依然として厳しい状況が続いている。

図表4 採算状況（業種別・規模別）



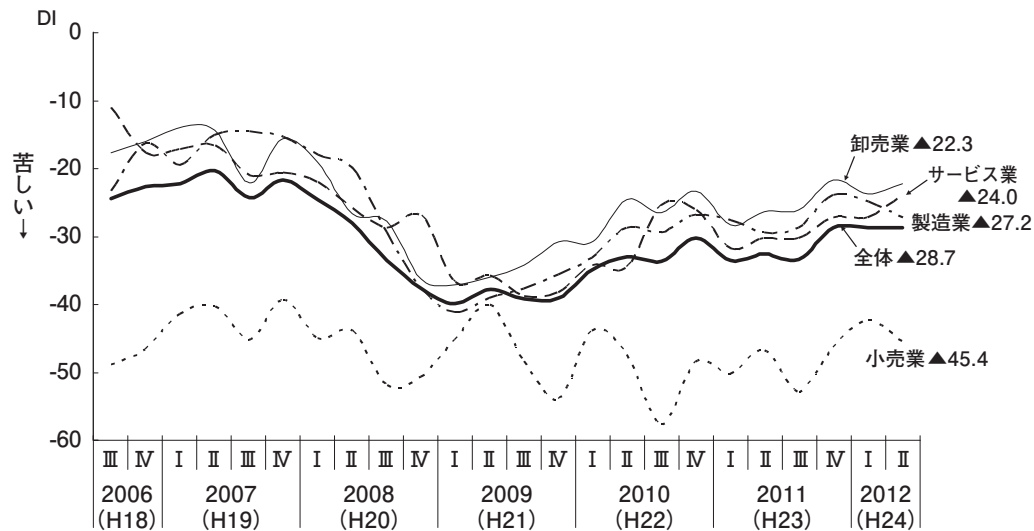
<注> カッコ内は前期（平成24年1～3月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」-「苦しい」）で見ると、▲28.7（前期▲28.7）と、3期連続で変化が無かった。

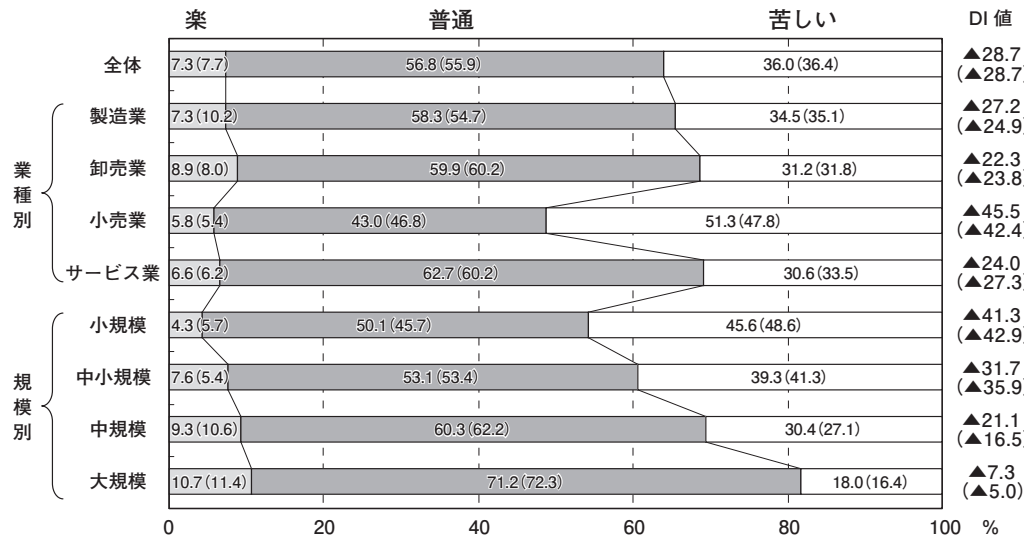
業種別にみると、卸売業▲22.3（前期▲23.8）、サービス業▲24.0（前期▲27.3）はそれぞれ改善したが、製造業▲27.2（前期▲24.9）は2期連続で悪化した。厳しい水準にある小売業▲45.5（前期▲42.4）は3期ぶりに悪化し、他の業種との差が開いた。

図表5 資金繰りDIの推移



規模別にみると、小規模▲41.3（前期▲42.9）は3期連続、中小規模▲31.7（前期▲35.9）は5期連続で改善した。一方、中規模▲21.1（前期▲16.5）と大規模▲7.3（前期▲5.0）は悪化し、規模による資金繰りDI値の差はやや縮小した。

図表6 資金繰り状況（業種別・規模別）

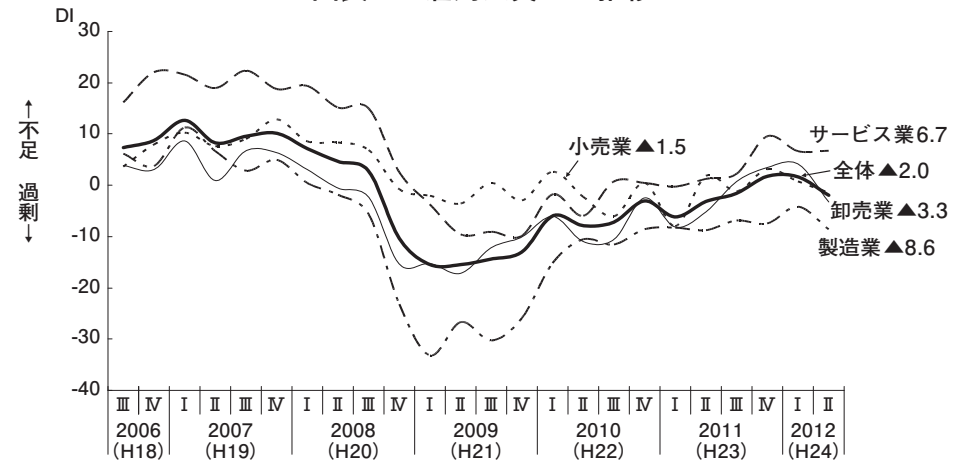


<注>カッコ内は前期（平成24年1～3月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）でみると、▲2.0（前期1.6）と3期ぶりに「過剰」感が「不足」感をやや上回った。

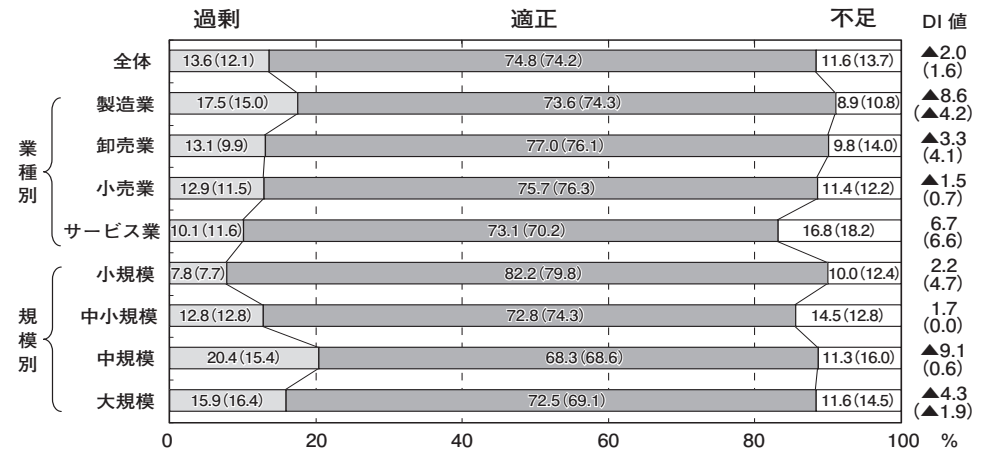
図表7 雇用人員DIの推移



業種別にみると、製造業▲8.6（前期▲4.2）、卸売業▲3.3（前期4.1）、小売業▲1.5（前期0.7）の3業種で「過剰」感が高まった。サービス業6.7（前期6.6）は前期とほぼ横ばいで、唯一「不足」感が「過剰」感を上回っている。

規模別にみると、小規模と中小規模は「不足」感が「過剰」感を上回っているが、中規模と大規模は「過剰」感の方が上回った。

図表8 雇用人員の状況（業種別・規模別）



<注>カッコ内は前期（平成24年1～3月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。